

東京都立墨田川高等学校 令和6年度 学校経営計画

統括校長 渡邊 範道

1 目指す学校

(1) 教育目標

- 知性 — 明澄な知性
- 創造 — 創造への努力
- 自主 — 自他の敬愛と自律の精神

(2) 教育目標を達成するための基本方針

本校は、東京府立第七中学校として設立以来、一昨年度創立百周年を迎えた歴史ある伝統校である。新たな社会を切り拓くリーダーを育成するため、教科の学習により得るものと特別活動で得るものを一体とする「文武不岐」の精神を掲げ、高潔な人格を育て、府立七中・新制都立七高・都立墨田川高等学校と継承されてきた「全人教育」の伝統を踏まえた教育活動を、さらに充実・発展させ、102年目を迎える本年度も新たな飛躍を目指していく。

また、本校は進学重視型単位制高校及び進学指導推進校として、国公立大学や難関私立大学進学の実現に向けて、新たな学びに取り組む学校である。教育目標を達成するために、以下の基本方針で教育活動を行う。

- ア 明澄な知性を育み、創造に努力する姿勢を育てる。
 - 知性に対する強い欲求と偏らぬ視野をもつ人間を育てる。
 - 創造のために高さを求め、情を愛し、工夫と努力を惜しまぬ態度を養う。
- イ 知性、創造性、自主性の基盤となる健全な心身を育む。
 - 健康な生活を送らせ、健全な心身を育む。
 - 清楚で清浄な生活態度を育てる。
- ウ 自主精神を重んじ、人権尊重の精神に基づき自他を敬愛する態度を養う。
 - 自分の言動に自主性と責任をもつ人間を育てる。
 - 自分とともに他者を敬愛する姿勢及び、豊かな情操と道徳心を培う。

(3) スクール・ミッション

明澄な知性、創造への努力、自他の敬愛と自律の精神を教育目標とし、生徒自身による「学びのサイクル」の実践で、高い学力を身に付け、進路希望の実現を図り、様々な教育活動を通して創造意欲・協働意識を高め、新しい社会を切り拓くリーダーにふさわしい能力を備えた生徒を育成します。

(4) スクール・ミッションに基づき校長が定めたスクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

- 自ら課題を発見し、論理的な思考を基に自らの人生を主体的かつ計画的に切り拓いていくことのできる資質・能力を身に付けます。
- 人々の多様性を認識し、互いに尊重することで、より良い社会的成果を生み出している資質・能力を身に付けます。

イ カリキュラム・ポリシー

- 必要な情報を整理・活用し、課題の本質を捉えて、自己の学びのサイクルを実践し、主体的かつ論理的に思考することができる能力を育てます。
- 自他の特性を活かし、困難な状況においても、課題解決に向けて解決策を創造・提案し、他者との協働を通して実現を図ることができる能力を育てます。

ウ アドミッション・ポリシー

- 学びへの強い興味・関心があり、目標に向かい、あきらめずに継続的に努力できる生徒を求めます。
- これまで授業以外の教育活動にも意欲的に取り組み、本校の教育目標を理解し、これからの意欲的に取り組むことができる生徒を求めます。

2 「墨田川ビジョン2025」に基づく中期的目標とその達成に向けた方策

本校が創立百周年を迎えた令和4年9月に、今後3年間で目指す学校像として「墨田川ビジョン2025」を策定した。これに基づき、中期的目標とその達成に向けた具体的方策を示す。

(1) 伝統の継承と発展

▼ **本校の教育目標を踏まえ、「全人教育」とその実現に向けた「文武不岐」を掲げていく。**

ア 学校行事等において主体的・協働的に活動できる生徒を育成するために、生徒の自主的な活動を通して、創造意欲を高め、新しい社会のリーダーにふさわしい指導力とコミュニケーション能力を培うとともに、集団の中で個性を育み、自主性や社会性、規範意識を高められるよう指導する。

イ 進学に向けた学習と学校行事・部活動を両立できる生徒を育成するために、「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づき、活動方針と活動計画を明確に定め、進学を目指す公立高校として、学習とのバランスを保つ部活動を実践する。

(2) 進路指導の充実による進学実績の向上

▼ **「進学重視型単位制高校」の特長を生かし、「進学指導推進校」としての役割を果たす。**

ア 習熟度別授業や少人数指導、多様な選択科目の設置等進学重視型単位制高校の特長を生かし、基礎・基本から鍛えるきめ細かい学習指導を通して、生徒一人一人の学力を各教科が責任をもって高めていく。

イ 授業を基本とした予習→授業→復習の「学習サイクル」に「自発的学習」を加えた「学びのサイクル」を定着させ、大学入学共通テストに対応できる学力の獲得を目指す。

ウ 進路指導部と学級担任、科目担当者、教科主任との連携を更に強化し、進学指導方法や内容の統一性を高めるなど進路指導部を中心とした組織的な進学指導を推進し、3年間を見通した進学指導マネジメントシステムを確立する。

エ 入試結果や定期考査、学力テスト、外部模試等の分析と定点観測を行うとともに、進路面談等を積極的に活用することにより、より高い目標校を最後まで志望させる指導を行うことや生徒個々の志望校を把握し継続して寄り添う指導を実践する組織的な体制を構築し、生徒の進路希望に応じた丁寧な指導を行う。

オ 放課後や土曜日、長期休業中を活用した講習・補講等を計画的に実施し、大学入学共通テストの得点率を高める学習指導の充実を図る。

カ 自主学習教材の活用を推進し、1年次から家庭学習の充実を図るとともに、進路に関する手帳等を活用し、計画的・自発的な家庭学習を定着させるよう指導していく。

(3) キャリア探究と進学指導の効果的な連携

▼ 「総合的な探究の時間」を核とした生徒の進路意識の向上及び学問的探究意識の育成と、生徒が自己の進路実現に向けて主体的かつ意欲的に学ぶこととを、相乗的に発展させる。

ア 生徒が「よいおとな」や「学問」との出会いのなかで、充実した探究活動を行えるよう、千葉大学をはじめとする外部機関との連携や外部人材を積極的に活用した「総合的な探究の時間」を充実発展させていく。

イ 自己の進路実現に向けて主体的かつ意欲的に学ぶ生徒を育成するために、科目選択と進路行事、「総合的な探究の時間」とを効果的に連関させながら、生徒の学問的興味・関心と進路意識を相乗的に発展させるよう工夫していく。

ウ 調査研究や専門書購読等の学問的探究の方法を身に付け、調査研究能力や情報収集能力、論文作成能力、プレゼンテーション能力などを高めるために、図書館の機能を充実させ積極的な活用を図る。

(4) 学習指導の充実による学習指導要領の趣旨の実現

▼ 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」など、今次の学習指導要領改訂の趣旨を実現するとともに、国際化やIT化の進む新しい時代の教育に向けた持続可能性を有する学校の実現を目指す。

ア 校内研修や教科会、科目担当者の連携を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業が展開できるよう、計画的な教科研修による組織的な授業力の向上を図る。

イ 「東京グローバル人材育成計画2020」及び「東京グローバル人材育成指針」を参考とし、英語科の授業における英語4技能伸長及び、海外姉妹校交流や海外語学研修などの国際教育プログラムを推進していく。

ウ 「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）等に基づき、情報活用能力を育成するために、授業や進路指導における一人1台端末を効果的に活用していく。

(5) 健康・安全教育の充実による生徒の人間性の伸長を実現する。

ア 学校の教育活動全体を通して人権意識を高め、自分を大切に思う心、他者を大切に思う心を育むとともに、自己理解・他者理解を促進し、多様性を受容できる資質を培う。また、生徒が安心して学校生活を送れるよういじめや暴力等を断固許さない指導を徹底していく。

イ 生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、心身の自己管理能力を高めるための健康教育を推進するとともに、相談機能の充実を図るために、スクールカウンセラーやユース・ソーシャル・ワーカー、家庭や警察署等の関係機関との連携を強化する。また、自殺総合対策大綱（令和4年10月14日閣議決定）に基づき、SOSの出し方に関する教育及び命の大切さの指導を行うことにより、自殺予防等の取組みを行う。

ウ 大規模災害に対応するために、避難誘導等の体制を準備するとともに、関係諸機関と連携し、生徒の安全確保を最優先した防災対策を推進する。

(6) 本校の良さを理解し、かつ意欲の高い生徒を獲得するための積極的な生徒募集対策を展開する。

ア 百年の歴史と伝統を有する進学重視型単位制高校及び進学指導推進校としての本校の特長を生徒・教職員が理解するとともに、中学生とその保護者及び地域に対し、的確な情報を効果的に発信し、本校を第一志望とする意欲ある優秀な生徒を獲得する。

イ 志望動向や入試情報の分析、中学生とその保護者の意見等を的確に受け止め、効果的で戦略的な生徒募集活動を展開する。

(7) 教職員の協働による効率的な業務遂行と柔軟かつ新たな発想による業務改善を勧めるとともに、ライフ・ワーク・バランスを実現する。

▼ 教職員が明確な目標に向けて互いに協働して効率的に職責を果たしながら、柔軟かつ新たな発想で業務改善に努め、教育課題の解決に意欲をもって取り組む。

ア 前例踏襲や創意工夫のない業務慣行に陥らない職場風土を醸成していくとともに、業務の精選と協働により効率的な校務運営を実現していく。また、そのために調査結果等根拠に基づいた課題の改善を行っていく。

イ 学校運営連絡協議会、美汀会（PTA）、墨水会（同窓会）、関係機関、外部有識者、地域町内会等による教育活動評価を活用し、学校経営や教育活動の検証・改善に努める。

ウ 若手教員の創造力、発信力、企画力を高めるための人材育成を推進していくとともに、中・長期的な人事構想に基づき、計画的な人事配置を図り、教育活動を積極的に推進・改善できる指導体制を構築する。

エ 教員の資質・能力を向上させ、実践的指導力のある教員を育成するため、「東京都教員人材育成基本方針」及び「OJTガイドライン」に基づき人材育成を一層推進していく。特に、新規採用教員をはじめとする採用後3年未満の教員については、「東京都若手教員育成研修」を中心に、校内において計画的な人材育成を行っていく。

オ サービス事故や体罰、個人情報等の紛失等の事故の発生により、生徒、保護者、都民の信頼を損なうことのないよう、サービス事故防止研修を実施し、サービス事故と体罰の根絶に努める。

カ 「ライフ・ワーク・バランス」の推進について、「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、長時間勤務の是正と教職員の意識改革を図るよう努めていく。

キ 自律経営推進予算を有効に活用するとともに、東部学校経営支援センター支所と連携し、教育環境の整備・改善を図る。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策【数値目標】

(1) 学習指導

ア 生徒の「学びのサイクル」の定着を図り、授業理解度と満足度を向上させる。

イ 生徒の学力を大学入学共通テストの得点率70%を獲得する水準に高めるため、日頃の授業、特に習熟度別授業や少人数指導、補習等の一層の充実を図る。

ウ 校内研修会や教科会、科目担当者間の連携を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業力の向上を図る。特に5教科及び情報科のすべての教員は、大学入試問題の分析を行うとともに、外部模試の結果等を分析し授業改善を図る。

エ 各教科において「学びのサイクル」の定着を図り家庭学習の時間を確保するために、予習、復習を促す工夫を行うとともに、課題分量の把握を進め、成績上位者の課題分量の精選を図る。

オ ICTを活用した教育を一層推進していくとともに、より効果的な活用方法を検討していく。

カ 新教育課程の課題改善に向けた検討を進め、教育課程委員会等において令和8年度入学生からの改訂に向けた議論を深めていく。

▼ **数値目標** (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度目標
学校評価アンケート①で「墨田川の授業の進度やレベルは、自分に合っていて学力向上につながり満足している」とする生徒の割合	74.0%	74.3%	80%以上
学校評価アンケート②で「墨田川の授業は進学や受験に役立つ内容となっているものが多い」とする生徒の割合	76.7%	77.0%	80%以上
学校評価アンケート④で「予習→授業→復習の「学習サイクル」に「自発的学習」を加えた「学びのサイクル」が定着している」とする生徒の割合	37.9%	41.7%	50%以上
大学入学共通テストの総合得点で7割以上得点した3年次生の人数	34名	30名	40名以上

(2) **進路指導**

- ア 国公立大学を志望する生徒に対しての情報提供を充実させるとともに、面談週間を効果的に活用するなどして、最後まで諦めずより高い目標校を最後まで志望させる指導を行うとともに、生徒個々の志望校を把握し継続して寄り添う指導を実践する組織的な指導体制を構築する。合わせて二次試験対策を強化し、中期・後期日程の受験を促進する。
- イ 新学部・学科、入試方式の変更等の進学に関する情報提供を充実させるとともに、難関私立大学受験対策を強化する。
- ウ 長期休業中の講習や校内予備校においては、講義内容が具体的な大学入試科目の内容やレベル等に対応していることが明確となるよう工夫するとともに、部活動との両立が図れるように設定する。特に、夏季休業中の開設講座は、生徒が休業中の計画を立てやすいよう5月中に講座を提示する。
- エ 「プレ第一志望宣言」などを通じ、第一志望校を2年次のうちに決定させるとともに、2年次の秋以降の進路指導を充実させ、1～3月を受験0学期ととらえ、生徒が、志望大学・学部・学科等を明確に意識した受験準備に当たれるよう指導する。
- オ 生徒の知的探究意欲向上のため、千葉大学との連携による大学訪問や模擬講義等を実施するなど「総合的な探究の時間」を充実発展させていくとともに、進路行事や選択科目説明会等を効果的に連携させながら、生徒の学問的興味・関心と進路意識を相乗的に発展させるよう工夫していく。また、区教育委員会等と連携した職業体験プログラムを計画する。さらに、それらの成果を活用した「総合型選抜」受験生徒への指導体制の充実を図る。
- カ 英語4技能伸長に向け、2年次生徒英検全員受験を実施し、資格取得に向けた指導を充実させるとともに、大使館訪問や留学生との交流会、海外姉妹校交流を行うシンガポール語学研修などの国際教育プログラムを積極的に推進していく。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度目標
国公立大学 (大学校含む) 現役合格者数	20名	21名	20名以上
難関私立大学 (早慶上理) 現役合格者延べ数	16名	8名	15名以上
私立大学 (GMARCH) 現役合格者延べ数	94名	53名	80名以上
学校評価アンケート⑦で「墨田川では進路を考える際に必要な情報を生徒や保護者に適切に提供している」とする生徒の割合	78.3%	78.6%	80%以上
学校評価アンケート⑥で「墨田川では探究活動などで生徒が将来の生き方について主体的に考えるよう指導している」とする生徒の割合	63.8%	67.4%	70%以上
学校評価アンケート⑮で「墨田川は国際交流の推進に力を入れている」とする生徒の割合	18.5%	37.2%	50%以上

(3) 生活指導・特別活動

- ア 生徒会や委員会活動において、生徒の自主性、自律性、規則性を高めるために計画的な指導を行うとともに、ホームルーム活動や学校行事を通して学校生活の満足度を高める。
- イ 学校のルールを順守した節度ある生活を送らせるよう、挨拶や服装等の指導を継続し、時間を大切にされた品位ある学校生活を確立するよう指導していく。その際、生徒に任せてやらせてみる指導への転換を模索しながら、全教職員による組織的な指導を行う。
- ウ 「部活動に関する総合的なガイドライン」を遵守し、顧問教諭と部活動指導員及び生活指導部が連携しながら部活動と学習とのバランスを保つよう指導する。
- エ 学校行事や部活動の大会終了後、生活指導部と学年担任団が中心となり、学習環境を整え気持ちの切り替えを促すなど、生徒がメリハリのある学校生活を送れるよう指導する。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度目標
学校評価アンケート⑳で「墨田川での学校生活は充実している」とする生徒の割合	81.7%	83.2%	85%以上
学校評価アンケート⑭で「墨田川では、学校行事や生徒会、部活動等で、生徒による主体的・自発的な活動が行われている」とする生徒の割合	83.6%	84.4%	85%以上
学校評価アンケート⑨で「墨田川では、服装、挨拶、遅刻の防止、通学時のマナー等の生活指導が徹底されている」とする生徒の割合	80.8%	83.2%	85%以上

学校評価アンケート⑩で「墨田川の生活指導は、生徒の理解や納得が得られている」とする生徒の割合	47.6%	51.3%	55%以上
学校評価アンケート⑫で「墨田川では、体育祭や七高祭などの学校行事が活発で充実している」とする生徒の割合	90.3%	91.9%	90%以上
学校評価アンケート⑬で「墨田川では、部活動が活発で充実している」とする生徒の割合	81.7%	85.1%	85%以上

(4) 健康・安全教育指導

- ア 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」(令和4年3月策定)を参考にした生徒の体力向上及び健康の保持増進のために、保健体育科の授業や部活動において、生徒の体力向上に取り組む。
- イ 「命の講話」などの機会を通して、命の大切さについて考えさせるとともに、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、いつでも悩みを相談できる体制を整える。また、「いじめ調査アンケート」の実施などあらゆる手段を講じ自殺の未然防止を徹底する。
- ウ 体罰根絶といじめの総合対策に基づいた生徒アンケートを実施し、結果の適切な分析を行うとともに、必要な場合には迅速・適切な対応を行う。
- エ 特別な配慮を必要とする生徒を適切に支援するために、「特別支援教育の推進について」(平成19年文部科学省初等中等教育局長通知)の趣旨を踏まえ、特別支援委員会やケース会議を年間通して計画的に実施し、生徒の状況の把握などの情報の共有化を図る。
- オ 食物アレルギーや食生活の自己管理を通じた健康の保持増進を図る。特に、宿泊を伴う学校行事に際しては、食物アレルギーのある生徒情報の共有を徹底する。
- カ 警察署と連携したセーフティ教室や消防署と連携した避難訓練等の体験活動を通して、安全や災害に対する意識を高める。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度目標
学校評価アンケート⑪で「墨田川では、悩みを相談できる相手や機会が適切に備わっている」とする生徒の割合	71.7%	72.9%	70%以上

(5) 生徒募集・広報活動

- ア 総務部の企画による全校体制での組織的・計画的・戦略的な生徒募集対策と広報活動を推進する。
- イ 志望者の多い地域(区)及び地元墨田区の中学校、学習塾を積極的に訪問し、本校の魅力を効果的に伝達する。
- ウ 学校見学会、学校説明会等は、「生徒で魅せる」企画を充実するとともに、自校作成問題対策会等においては、自校作成問題の出題意図や難易度、試験対策を分かりやすく伝える。
- エ 学校ホームページにおいて、きめ細かく情報を提供するとともに、本校の教育活動の魅力を積極的に発信する。

▼ **数値目標** (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	5年度入試実績	6年度入試実績	7年度入試目標
東京都中学校長会進路対策委員会による志望予定(第1志望)調査の志望者数	349名	358名	370名
推薦に基づく選抜応募倍率	2.55倍	3.11倍	3.00倍
学力検査に基づく選抜最終応募倍率	1.37倍	1.28倍	1.40倍
学校見学会、学校説明会、高校入試ガイダンス、自校問題対策会、夏季休業中の学校見学会、放課後の学校説明会、塾対象説明会での来校中学生・保護者・教員等延べ数	中学生1989名 保護者・指導者等 1315名	中学生2201名 保護者・指導者等 1595名	中学生2300名 保護者・指導者等 1600名
学校評価アンケート⑨で「墨田川高校の公式ホームページは充実している」とする生徒の割合	43.8%	65.9%	70%以上

(6) **学校組織運営**

- ア 校務分掌における役割分担の明確化と複数担当制の推進により、責任の所在を明確にした校務運営を実現するとともに、業務内容の精選とマニュアル化を進め、校務の効率化を図る。
- イ 学校運営連絡協議会での意見や学校評価アンケートの結果を校務改善に有効に活用し、校務におけるPDCAサイクルを機能させる。
- ウ 分掌等の支援や副担任機能の強化による年次担任業務の軽減など、相互に協力し合う職場風土の醸成に努める。
- エ 校務の効率化を図り、学校閉庁日の完全実施や週1日の「マイ定時退勤日」の設定など、「学校における働き方改革推進プラン」(平成30年2月策定)に基づき、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組を推進する。
- オ 情報セキュリティに対する職員の意識向上、教育公務員としてのサービスの厳正について指導を徹底するサービス事故防止研修を年間5回以上実施し、体罰やサービス事故の根絶に努める。
- カ 効率的に予算を執行するとともに、センター執行率の高い効果的な予算編成を行うとともに、職員のコスト意識を高め、ペーパーレス化を一層推進する。また、学習環境の整備と効果的な生徒募集対策のために、施設・設備の点検や修繕を要望していく。

▼ **数値目標** (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度目標
学校評価アンケート⑩で「墨田川の教室、特別教室や体育施設、校庭等施設・設備はよく整備されており、学習環境が整っている」とする生徒の割合	47.1%	45.1%	50%以上

以上